

# 膝蓋骨の形状による他因子の 関係について

鈴木智明



のかおい整形外科

リハビリテーション科

## COI開示

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

## 対象分類

全18名 Pointed type(8名) Blunt type(10名)

年齢 55.3±22.4歳

68±8.01歳

男:女 1:7名

2:8名

## 背景と目的

臨床において膝蓋骨に様々な形状があることを経験する。江玉らによると膝蓋骨の形状は膝蓋骨下極が尖っているタイプ(Pointed type)と丸いタイプ(Blunt type)があると報告されている。今回は膝蓋骨の形状によって、他因子に関係があるかを検討した

## 方法

対象：当院を受診した外傷や骨折、著明な筋損傷のない膝関節疾患を呈した患者18名

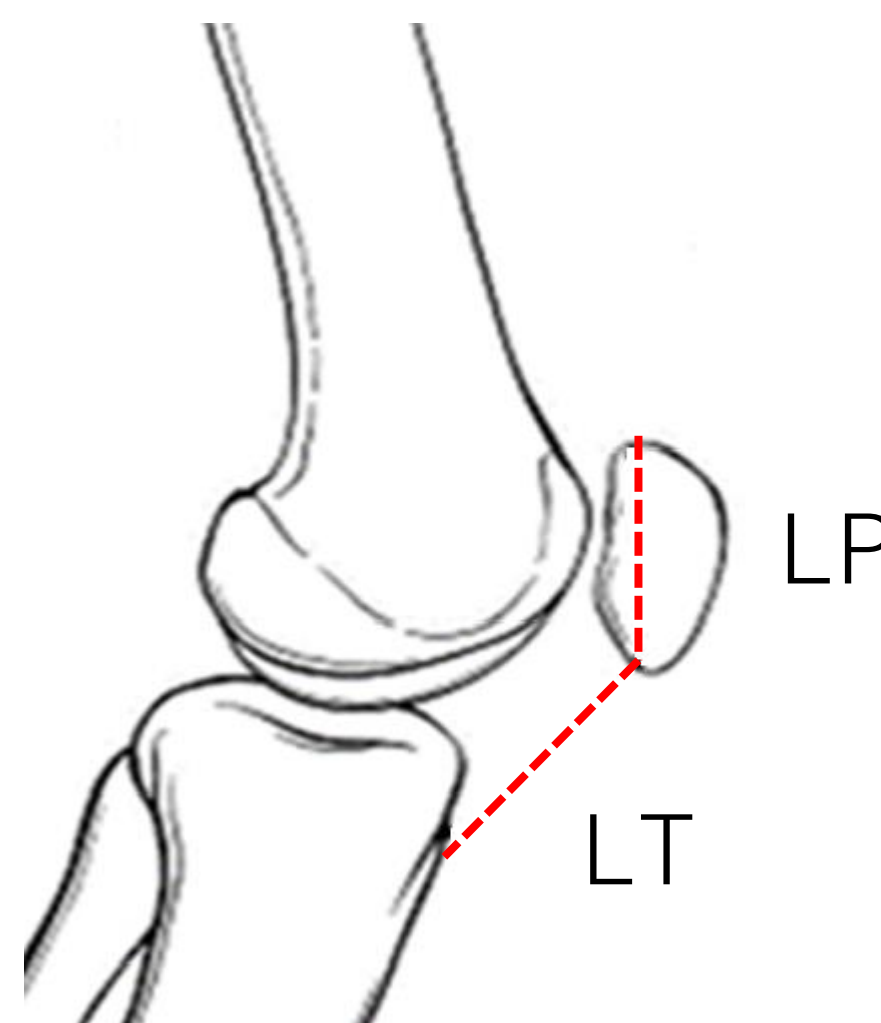
評価項目：膝蓋骨type分類、膝の関節可動域(以下ROM)の屈曲及び伸展、伸展筋力(N) 膝蓋骨上極と下極間の距離(LP)、膝蓋骨下極と脛骨粗面上縁間の距離(LT)、LT/LPを Patella height とした

膝蓋骨type



Pointed type Blunt type

LPとLT



Insall-Salvati法

筋力測定法



## 結果

	Pointed type		Blunt type		平均値
	平均以上	平均以下	平均以上	平均以下	
ROM(Flex)	4名	4名	7名	3名	137.6
ROM(Ext)	2名	6名	6名	4名	-3.52
伸展筋力	2名	6名	7名	3名	14.27
LP	6名	2名	2名	8名	41.57
LT	3名	5名	4名	6名	45.04
Patella height	3名	5名	5名	5名	1.08

※有意差があったものを赤字で記載 (p<0.05) p値はカイ2乗検定を用いて算出

## 考察・結語

膝蓋骨の形状による他因子の関係について検討した

Blunt typeに比べPointed typeはROM制限、伸展筋力の低下がみられた

Pointed typeは膝蓋骨が後傾しやすい形状であると報告されている  
→インピンジメントによるROM制限筋力低下につながりやすいと考えた

膝蓋骨の後傾が大きいtypeは、下極後面の腱線維に強い伸張ストレスが加わる可能性があり大腿四頭筋の伸張性低下にも関係があると考えた